

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

秋

2012 Vol.636

◆特集○話題の焦点

次世代エネルギーの可能性について考える
～次世代エネルギーパークレポート～

◆夢インタビュー

笑顔で観る人を元気にする 華やかな舞台がチアダンスの魅力

◆第18回夢けんせつフォトコンテスト

受賞作品紹介

◆おじゃまします

三大宝建設株式会社



次世代エネルギーの可能性について考える ～次世代エネルギーパークレポート～

エネルギー問題や環境問題の解決を図るため、太陽光・水力・バイオマスといった「再生可能エネルギー」や、省エネ・省CO₂技術の開発・利用への期待が高まっています。

今回の特集では、滋賀県建設業協会広報委員会のメンバーが、堺市にある「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」の2つの施設をレポートしました。

軟弱な地盤への荷重を軽減するよう工夫された土台



風の影響を考慮して15度というゆるやかな傾斜角でパネルが設置されている



世帯の一般家庭で使用される約1,100万キロワットアワーの電気を発電し、年間約4,000トンのCO₂削減効果が期待されています。建設に当たって、関西電力



堺太陽光発電所 甲子園球場約5個分、日本最大級のメガソーラー

建設費・維持管理費の
低コスト化を実現

堺太陽光発電所は、堺市と関西電力株式会社の共同事業で、約21ヘクタール、甲子園球場約5個分の敷地におおよそ7万4000枚のソーラーパネルが設置された国内最大級のメガソーラー（大規模太陽光発電所）です。

工事は1期、2期、3期に分けて行われて、平成23年9月にすべての営業運転が始まりました。最大出力は1万キロワット、年間約3000

世帯の一般家庭で使用される約1,100万キロワットアワーの電気を発電し、年間約4,000トンのCO₂削減効果が期待されています。建設に当たって、関西電力

エネルギーの未来について考える
次世代エネルギーパーク

次世代のエネルギーについて、実際に国民が見たり触れたりする機会を増やすことで、地球環境と調和した将来のエネルギーの在り方について、国民の理解を進めることを目的に、平成19年度から経済産業省の資源エネルギー庁が推進しているのが「次世代エネルギーパーク」計画です。

環境モデル都市として、低炭素都市の実現に向けた取り組みを行っている堺市では、高効率の火力発電所や国内最大級の太陽光発電施設「堺太陽光発電所」、廃木材からバイオエタノールを製造する世界初の工場「株式会社D-I-N-S 堺バイオエタノール事業所」など、10施設からなる「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」を大阪府と共に推進してきました。

ではソーラーパネルの設置方法や維持管理方法などを徹底的に検討して低コスト化に取り組みました。例えば、一般的に日本で発電効率の高いソーラーパネルの傾斜角は30〜35度とされていますが、海辺に面した立地にあることから、風圧に耐えられる基礎部分を建設するためにかかるコストなどを考慮して、傾斜角15度というゆるやかな傾斜で設置されています。産業廃棄物の埋立処分場であることから、1平方メートル当たり2トン以下の荷重しかかけられないことや、盛り土分の50センチ以内しか掘れないことを考慮して、傾斜をゆるくすることで、コンクリートの基礎部分をできるだけ小さくしました。さらに、通常ソーラーパネルを支えるために取り付ける鋼製の架台を用いずに、コンクリート基礎にパネルを直付けしたことで、コストを抑え、地面にかかる荷重も軽減しています。埋立地であることから地盤沈下の影響を考慮して、パネルを支える基礎が不等沈下しても、

湖国 街かどウォッチング



地域や学校での平和学習の相談などに応じるカウンター
館内には当時の暮らしを伝える展示が行われている
戦時下の滋賀の人々の写真が掲げられたエントランス

滋賀県平和祈念館

滋賀県では、平成5年頃から戦争体験者の聞き取り調査や資料の収集が始まりました。これまでに1300人以上の体験談と約2万5000点の資料が提供されました。

これらの貴重な体験談や資料をもとに、戦争を経験した方々の思いや平和への願いを次の世代に語り継ぐために、20年の構想を経て平成24年3月に滋賀県平和祈念館が開設されました。

建物は、鉄筋コンクリート造2階建て、延べ床面積3,055平方メートルの旧愛東町役場の庁舎を改修したもので、主



旧愛東町役場を改修した平和祈念館

に1階が展示スペースとなっています。「平和の燈」が灯る玄関エントランスに続く基本展示スペースでは、床一面に描かれた衛星写真の滋賀県全図に、飛行場などの軍関連の施設や大阪などからの学童疎開を受け入れた学校、空襲を受けた地域などがポイントされています。今、自分たちが暮らしている地域や身近な場所にも、戦争に関連する施設やできごとがあったということが確認できます。

企画展示スペースでは、収集された資料の中からテーマに基づいた展示が行われています。戦地から家族に送られた手紙や当時の世相を伝える写真、軍服や千人針などの展示や説明から、戦時下の暮らしや人々の思いについて学び、戦争の悲惨さについて考えるコーナーになっています。

また、地域、学校での展示や学習、資料の貸し出しなどについて相談できるカウンターを設置して、学校や地域の平和学習の支援を積極的に進めています。ワークショップや講演会などが開催できる地域交流室や研修室も設けられていて、平和学習講座や戦争体験者のお話し会なども開かれています。

戦後67年を経て、戦争の記憶が風化しつつある今、改めて平和の尊さについて



床に描かれた滋賀県全図には空襲を受けた地域などが示されている

考え、次の世代に語り継ぐために、ぜひ訪れてみたい施設です。現在、平和祈念館では、秋季企画展示「八日市飛行場―飛行場があった街―」が開催されています。八日市飛行場と飛行場とともに発展してきた東近江地域に残る戦争の記憶をたどることができる体験談や資料が展示されています。（12月22日まで）

所在地 東近江市下中野町431番地
TEL 0749-46-0300
開館時間 9時30分〜17時
休館日 月・火曜日（祝日の場合は開館）、年末年始
入館料 無料



エントランスに灯された「平和の燈」

CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………	2
滋賀県平和祈念館……………	3
特集・話題の焦点……………	3
次世代エネルギーの可能性について考える……………	6
夢インタビュー……………	6
笑顔で観る人を元気にする華やかな舞台がチアダンスの魅力ちあばーる夢組 大前セツ子……………	6
ビジネス最前線……………	7
株式会社ワタセ……………	7
第18回……………	8
夢けんせつフォトコンテスト……………	8
受賞作品紹介……………	8
おじゃまします……………	14
三宝建設株式会社……………	14
近江建築探訪……………	16
柳ヶ瀬トンネル……………	16
「仕事の達人・遊びの達人」……………	17
腰痛予防のために始めたランニングオフタイムもアウトドアでオンタイム 菅 豊三郎……………	17
バスルとクイズ……………	18
近江うまいもの紀行……………	18
夢けんひろば……………	18
読者の声……………	19
編集後記……………	19
表紙写真……………	
「まなざし」 杉本 弘樹……………	
「語らいの小径」 藤野 直子……………	

糖液にK011を加えてエタノール発酵を行う発酵設備



廃木材を選別する前処理設備

と糖液回収残さ「リグニン」に分解されます。糖液は中和して発酵槽に送られ、これにK011を加えて48時間かけて発酵させた低濃度のエタノールは、「濃縮・蒸留・脱水」設備でガソリンに添加できる品質に精製されて、燃料用エタノールとして出荷されます。

一方、エタノール原料に適さない廃木材は、ボイラー設備に投入され、蒸気回収し熱源やタービン発電に利用し、余剰電力は売電されます。

また、糖液回収残さ「リグニン」は、ボイラーの廃熱で乾燥させた後、バイオマス燃料として出荷されています。

現在の生産能力は年間1,400キロリットル、処理される建設廃木材や木くずは年間約3万5,000トンで、今後は食品残さなどの利用も検討していく予定です。

「いかに需要を伸ばして安定した販路を確保するか」が課題ですが、エタノールを混合したE3燃料を販売しているスタンドは大阪府内に10カ所程度しかなく、バイオ燃料の普及が進んでいるアメリカなどに比べると、日本ではなかなか需要が伸びないのが現状です。

現在、新しい利用法として、バイオエタノールから燃料電池や水素自動車の燃料になる高純度水素を製造する技術が開発され、製品化に向けた研究が進められています。

さらに、より収率の高い発酵法である「アルカリ法」の研究が進められていて、実用化されると生産量の増加やコスト削減につながるのではないかと期待されています。

株式会社DINS堺 バイオエタノール事業所
堺市西区築港新町4丁2-7
連絡窓口 堺市環境局環境都市推進室

「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」の各施設の特徴や見学予約の方法などについては、以下の堺市のサイトをご参照ください。
http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_kanto/enepa.html



株式会社昭建
大阪市浜大津二丁目5-9 TEL: 077-525-5131
<http://www.kk-shoken.co.jp/>

滋賀県内初のメガソーラー 株式会社昭建が湖南市に建設

株式会社昭建では、湖南市石部の自社工場内の1万7,200平方メートルの敷地に、出力322ワットのソーラーパネル5,600枚を設置した、滋賀県初のメガソーラーを建設、来年3月の稼働を目指しています。

総発電量は170万キロワットで、一般家庭の500世帯分の使用電力に相当する発電量になります。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度に基づき、すべてを関西電力に売却することになっています。

原油換算で年間約430キロリットルのエネルギーを削減し、年間約530トンのCO₂排出を抑えることになります。



低濃度のエタノールは、濃縮・蒸留・脱水設備でガソリンに添加できる品質に精製される。



関西国際空港への帰着便の窓から見える「SOLAR SAKAI」の文字



甲子園球場5個分の敷地一面に設置されたソーラーパネル

それを吸収できる特殊な取付金具を開発しました。

また、コスト削減の大きな要因として、無人で運営できる点があげられます。普段は大阪府にある給電制御所で遠隔監視を行い、メンテナンスは月に一度、社員が巡回して異常がないかを点検しています。

ランドマークとして
太陽光発電の普及に取り組む

太陽光発電は、1日の間に出力が大きく変動するほか、気象条件により細かく出力が変わります。

ます。太陽光発電が大量に導入されると、電気の使用量と発電量のバランスが崩れ、周波数が変動して品質が低下します。

関西電力では、需給制御のために蓄電池を活用して、気象の変動などがあっても周波数を一定に保つ電力需給制御システムの研究を進めています。

また、堺市のランドマークとして低炭素社会実現に向けた取り組みを広く発信できるように、昼間は赤いシートで、夜間はLED照明で描かれた「SOLAR SAKAI」の文字が、関西国際空港への帰着便から見えるようになっています。

堺太陽光発電所
堺市西区築港新町4丁
連絡窓口 堺市文化観光局観光部観光企画課

バイオエタノールはガソリンと混ぜて使うのが一般的で、日本では現在法律で3%まで混合できることになっています。

株式会社DINS堺 バイオエタノール事業所の製造プラントは、平成19年に廃木材からエタノールを製造する世界発の商業プラントとして完成しました。

食料である農産物を原材料とせず、これまであまり利用法がなかった建設廃木材や木くずをバイオマス資源として有効利用するということで、環境省の「地球温暖化対策ビジネスモデルイニキベーター事業」に採択されました。

このプラントを可能にしたのが遺伝子組み替え菌「K011(ケイオーイレブシ)」で、これまで技術的に難しいとされてきた木材に多く含まれるC5糖(ヘミセルロース)をエタノールに転換できるようになりました。

**建設廃木材を
バイオマス資源として有効利用**

バイオマス燃料は動植物から生まれた再生可能な燃料で、化石燃料に代わる次世代エネルギーとして注目されています。その一つバイオエタノールは、サトウキビやとうもろこし、廃木材などを発酵させて、蒸留して作られる植物性のエチルアルコールです。

植物は大気中からCO₂を吸収して成長するため、燃やしてもCO₂の総量が増えないカーボンニュートラルな燃料として、バイオエタノールの利用はCO₂排出量にカウントされません。

バイオエタノールはガソリンと混ぜて使うのが一般的で、日本では現在法律で3%まで混合できることになっています。

株式会社DINS堺 バイオエタノール事業所の製造プラントは、平成19年に廃木材からエタノールを製造する世界発の商業プラントとして完成しました。

食料である農産物を原材料とせず、これまであまり利用法がなかった建設廃木材や木くずをバイオマス資源として有効利用するということで、環境省の「地球温暖化対策ビジネスモデルイニキベーター事業」に採択されました。

このプラントを可能にしたのが遺伝子組み替え菌「K011(ケイオーイレブシ)」で、これまで技術的に難しいとされてきた木材に多く含まれるC5糖(ヘミセルロース)をエタノールに転換できるようになりました。

株式会社DINS堺 バイオエタノール事業所



**発電も廃木材で、
糖液回収残さも燃料として出荷**

プラントでは、まず廃木材がエタノール原料用とボイラー燃料用に分別され、破砕機で12ミリ以下のチップに粉砕されます。原料用チップは「加水分解・糖液回収設備」で、蒸気による熱と圧力と硫酸を触媒として、糖液

農商工連携による 付加価値の高い製品開発を目指して



株式会社ワタセ
近江八幡市安土町下豊浦2番地
Tel 0748-46-2103
http://www.watase.co.jp/



へちまの繊維と試作品の枕



寝具のほかにホームウエアや雑貨などを揃えた店内(上)
寝具を製造する工場が併設されている(下)



社長の辻貫史氏

株式会社ワタセは近江八幡市安土町で4代続く寝具製造販売会社。辻貫社長は、『家を企業に育てる』ことを決意して、新しい企業スタイルを模索し、新製品の開発やライフスタイルの提案などを手がけてきました。

例えば、従来のふとん屋さんの守備範囲となる時間を前後2時間延長して、夕方の7時から午前10時までで「ネムネムの時間」とし、その時間帯を快適に過ごすためのさまざまな商品を提案するため、寝具のほかにホームウエアや雑貨などを揃えた「ねむねむはうす」を平成元年にオープンしました。

また、平成12年には、寝姿勢や睡眠の行動学の研究から開発された「みのむしふとん」を発表し、特許を取得しました。みのむしふとんの特徴は、立体構造なので寝返りしやすく、掛け布団がずり落ちることなく、頭部や肩口の冷えがないので寒い季節に熟睡できるという点にあります。京都工芸繊維大学の協力により、人間工学の感能試験の手法を用いて、すっぽりと包まれることで精神的な安心感が得られることも証明されました。

ユニークな発想と優れた機能性で、発売以来通販サイトで人気商品となり、マスコミでもしばしば紹介されています。



眠りの研究から開発された「みのむしふとん」

そのきっかけは、「耕作されずに放置されたままの農地が目につくようになったため」と言う辻社長。「米を作っても、減反対策で小麦などを作っても、農家は利益が出ないうえ、後継者不足がますます耕作放棄地を増やすことになる。加工・販売

現在、辻社長が取り組んでいるのが、へちまの繊維を用いた新しいクッション材を開発し、これを用いた枕などの新商品を開発する事業です。自然素材にこだわり、近江本麻を使った布団を商品化した辻社長が、かつては滋賀県の特産品であったへちまに着目、地元農家と連携して休耕田でへちまを栽培し、商品化することになりました。

低反発ウレタンやプラスチックチップなどの従来のクッション材は、通気性・吸湿性が良くないため、夏は蒸れやすく湿った感じがするといった欠点がありました。へちまの繊維は立体形状で通気性、吸水性、速乾性、弾力性に優れているうえ、重量はウレタンの7分の1。麻や麻綿などの天然繊維と組み合わせ、枕のほか抱き枕やクッション、ベッドパット等に加工することで、質の高い眠りを提供できる製品になると期待を寄せています。

「売り手よし、買い手よし、生産者よし」だけでなく、「快眠、環境、共生」の三方よしにもつながると辻社長。現在は試作段階ですが、量産に向けて準備を進め、来年には商品化が実現する予定です。



休耕田を活用したへちま畑

【6次産業】
第1次産業で生産された農作物などを加工して、販売までを一元的に実施すること。加工する第2次産業、販売する第3次産業の1と2と3を足し、もしくは掛けて6次産業と呼ばれる。

夢 Interview

笑顔で観る人を元気にする 華やかな舞台がチアダンスの魅力



躍動感のある書体で書かれた「ちあばーる夢組」の横断幕



手作りの衣装で出演した夏まつり

電王町を拠点に活躍する「ちあばーる夢組」は、平均年齢60歳のチアダンスグループ。見る人を元気してくれると、マスコミでも取り上げられ、イベントなどへの出演依頼が急増しています。

組長の大前セツ子さんに、元気の秘訣やチアダンスの魅力についてうかがいました。

●チアダンスを始めるきっかけは何だったのですか。

「たまたまテレビを見ていたら中高年のチアダンスが紹介されて、その笑顔がとても印象的で、年をとってもあんなふうにステキな笑顔でいられたらいいな」と思ったのがきっかけなんです。

●以前からリズム体操を習っていたのですが、リズム体操の講師の国本正子先生にチアダンスをやってみたくて相談しました。

●それからメンバーを募られたのですか。

「新聞の折り込みでメンバー募集の広告を入れましたが、なかなか集まりませんでした。でも、あの笑顔が忘れられなくて、どうしてやってみたくて、知り合いなどに声をかけて、やっと5、6人のメンバーを集めて、国本先生に指導をお願いして月3回のレッスンを始めました。」

●チームの名前がユニークですね。

「最初からチームを作ったらこの名前にしよ」と決めていました。一般的なチアガールのような若い女性ではありませんが、いつまでも元気なステキに年を重ねていきたいという夢を託しました。

●そしてレッスンの成果を発表される機会があったのですか。

「初舞台は地域の老人会の集まりで、手作りの衣装で「マッケンサンバ」を踊りました。●高齢者施設を訪問したり、県内のイベントなどに出演される機会も増えているそうです。」

●すが、みなさんの反響はいかがですか。

「若いね」「元気をもらえた」「笑顔が良かった」「楽しかった」と言ってくださる方が多くて、とても励みになります。」

●息子の結婚式で踊って華を添えてほしい」と頼まれたこともありまして。

●活動を続けていくうえで何か苦労はありますか。

「メンバー全員、やる気はあるけど体が付いてこないところですね。振り付けを覚えるのに時間がかかるし、忘れやすい。それに、みんな足や肩や腰が痛いのをだましましやっています。」

●チアダンスの魅力はどこにありませんか。

「とにかく華やかで、明るく元気になれることです。イベントのオープニングを盛り上げることができると、高齢者施設でも手品や日舞とはまた違った華やかさがあっていいと喜んでいただいています。」

●「ちあばーる」の活動は予想以上に盛り多いものになったのではないのでしょうか。

「チアダンスをしたいと思ったら、教えてくださる方や参加してくれる友人、応援してくださる方々に出会い、いろいろなところから出演してほしいと声をかけ



大前セツ子さん

〇おまえせつこ
ちあばーる夢組 組長

和歌山県生まれ。結婚を機に滋賀へ。子育てが終わり、何かを始めたいと思っていた時にチアダンスに出会い、平成19年にチアダンスグループ「ちあばーる夢組」を結成。フラダンスやオカリナにも挑戦中。

「元気をもらえる」と各地のイベントへの出演依頼が増えています。

「元気をもらえる」と各地のイベントへの出演依頼が増えています。

「元気をもらえる」と各地のイベントへの出演依頼が増えています。

「元気をもらえる」と各地のイベントへの出演依頼が増えています。



「元気をもらえる」と各地のイベントへの出演依頼が増えています。

建設業労働災害防止協会滋賀県支部長賞
「吊り橋塗装中」木村 宏 [福岡県]



社団法人滋賀県土木施工管理技士会会長賞
「岩場の手品師」城田 祥男 [京都府]



優秀賞

PHOTO 第18回 CONTEST 入賞作品

●審査員/滋賀県写真連盟 会長:永繁 昭 並びに主催者

- 主催/ (社) 滋賀県建設業協会
- 後援/ 滋賀県、滋賀労働局、(株) 滋賀産業新聞社、西日本建設業保証(株) 滋賀支店、(社) 滋賀県建設業団体連合会、滋賀県建設業協同組合、(社) 滋賀県土木施工管理技士会、建設業労働災害防止協会滋賀県支部、(独) 勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部、びわ湖放送(株)
- 協賛/ 滋賀県写真連盟、滋賀県カメラ材料商組合、株式会社 トミカラー

第一部
「建設業にはたらく人々」
第二部
「滋賀の建造・構造物」
(橋、ダム(堰堤、流路を含む)・道路、トンネル)」

	応募者数	応募点数	第一部	第二部
総数	187人	320点	163点	156点
内訳	県内	101人	49点	124点
	県外	86人	114点	32点

入賞作品展
のお知らせ
入場無料

- 10月13日～10月14日 おうみしごと体験フェスタ
滋賀県立高等技術専門学校(テクノカレッジ草津)
(滋賀県草津市青地町1093番地)
- 10月27日 輝湖祭(短期大学文化祭)
滋賀職業能力開発短期大学(ポリテクカレッジ滋賀)
- 11月中旬 建設業雇用改善推進大会
大津プリンスホテル(予定)
(滋賀県大津市におの浜4-7-7)
- 平成25年2月頃予 短期大学学生発表会
滋賀職業能力開発短期大学(ポリテクカレッジ滋賀)
(滋賀県近江八幡市古川町1414)

審査後記

滋賀県写真連盟会長 永繁 昭

全国各地から多数の作品が寄せられ、このコンテストの存在の大きさがよく理解されます。特に上位の作品は力作揃いで順位を決定するのに苦労しました。上位点数は素晴らしいと思います。四ツ切りワイドの写真が、かなりの点数ありましたが、画面作りに一考を与えるものが多く見られました。本年は特に実行委員会のご好意により、特別奨励賞を作っていました。この作品は、子どもたちの夢作りが大きく「ふくらむ」作品になっています。

第一部「建設業にはたらく人々」

(デジカメ・カメラ可)

グランプリ

滋賀県知事賞
社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞

「まなざし」

杉本 弘樹 [滋賀県]



評

真剣な眼差しで作業されている姿が目を引きます。特に手の動きがよかったです。



滋賀労働局職業安定部長賞
「がんばれかあちゃん」新城 剛 [滋賀県]



独立行政法人勤労者退職金共済機構建退共滋賀県支部長賞
「屋根職人」八田 義明 [滋賀県]

入選

中村 真也 [滋賀県]
「心同体」



石川 賢一 [高知県]
「こけら屋根」



特別賞



BBCびわ湖放送株式会社賞
「獅子奮迅」
田中 貴之 [大阪府]

第二部「滋賀の建造・構造物(社寺仏閣・城)」

(デジカメ・カメラ可)

評

初夏の石タタミの歩道に行く学生を取り入れ、奥行きのある作品に仕上げられた作者の感性の高さが想われる作品です。



グランプリ

「語らいの小径」

藤野 直子 [滋賀県] (撮影場所 / 大津市)

滋賀県知事賞 社団法人滋賀県建設業協会会長賞
滋賀県写真連盟会長賞

優秀賞

「下支えの組立て」
湯浅 登代丸 [京都府]



「防潮堤かさ上げ工事」
水島 脩行 [千葉県]



「伝統の技」
平石 宏行 [京都府]



「月に見守られ」
増田 恵 [長野県]



「灼熱の屋根」
宇田 毅 [滋賀県]

「溶接作業」

前田 頼利 [滋賀県]



「下水処理施設で働く作業員」

服部 貴典 [滋賀県]



「大空の下」

石森 文夫 [福島県]

奨励賞

特別奨励賞

「夢のスカイツリー完成」
武内 勇雄 [愛媛県]



「草津PAを閉鎖して舗装をなおしています。」

杉江 慶彦 [滋賀県]



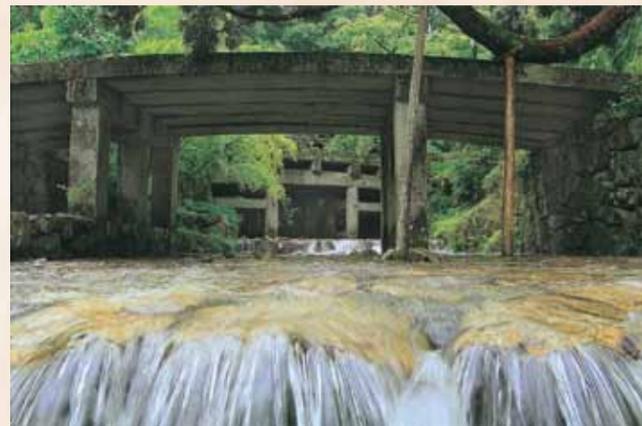
「真夏の現場はまめに一服」

藤田 吉廣 [滋賀県]

「息が合った作業」
藤波 喜競 [埼玉県]



株式会社滋賀産業新聞社長賞
「レトロ」湖山 昌男 [奈良県] (撮影場所 / 大津市 坂本ケーブル)



西日本建設業保証株式会社滋賀支店長賞

「古の遺産」木下 正治 [京都府] (撮影場所 / 大津市坂本 日吉大社)

「仕上はまかせろ」
上田 利明 [滋賀県]

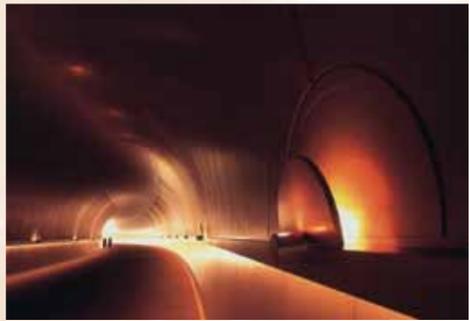


「工事進行表」
杉浦 幸男 [愛知県]





「峠道」
武藤 繁一 [滋賀県]
〈撮影場所／高島市小入谷〉



「未来への旅立ち」
桑原 達夫 [滋賀県] 〈撮影場所／甲賀市信楽町〉



「こっちへおいで!」
強力 美津雄 [滋賀県] 〈撮影場所／米原市〉



滋賀県建設業協同組合理事長賞
「夏の夢」田中 博文 [滋賀県] 〈撮影場所／大津市伊香立〉



社団法人 滋賀県建設産業団体連合会長賞
「夏休み」岡田 健司 [滋賀県] 〈撮影場所／東近江市平柳町〉



「青土ダム」
大町 誠一 [滋賀県]
〈撮影場所／甲賀市土山町青土〉



「水音」
小島 守 [滋賀県]
〈撮影場所／高島市朽木〉



「公園」
大嶋 武夫 [愛知県]
〈撮影場所／高島市新旭町〉

特別賞



BBCひわ湖放送株式会社賞
「春のかわらぬミュージアム」
西田 叔弘 [滋賀県]
〈撮影場所／近江八幡市〉

入選



「夕照の『瀬田の唐橋』」
山田 まさえ [滋賀県]
〈撮影場所／大津市瀬田〉

奨励賞

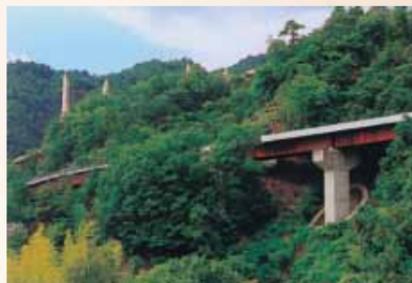
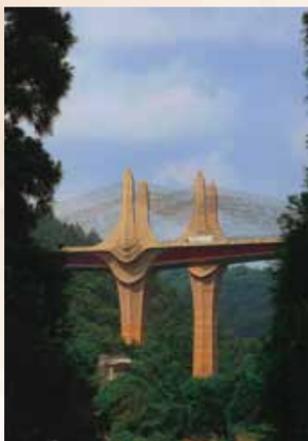
「冬のダム」
北川 孝 [滋賀県]
〈撮影場所／犬上郡甲良町〉



「マキノの休日」
小川 正 [滋賀県]
〈撮影場所／高島市マキノ町〉



「美形橋」
池田 孝保 [滋賀県]
〈撮影場所／大津市志賀〉



「猫バス街道」
兼光 喜一郎 [滋賀県]
〈撮影場所／大津市大鳥居〉



「里の橋」
前河 栄次 [滋賀県]
〈撮影場所／犬上郡多賀町〉

「曲線美」
木下 博貴 [愛知県]
〈撮影場所／守山市 琵琶湖大橋〉



「朝の落差工」
黒田 収 [滋賀県] 〈撮影場所／野洲市〉

「越溪橋冬景色」
中西 博樹 [滋賀県]
〈撮影場所／東近江市政所〉



「心一つで苦も楽となる」 大切なことは夢を失わないこと

三大宝建設株式会社

滋賀県栗東市御園

代表取締役社長 安藤 玲子



社屋

これまでの道のり

昭和45年設立の三大宝建設株式会社は、土木工事、舗装工事、解体工事のほか、産業廃棄物リキ類の中間処理及び収集運搬、再生砕石などの製造・販売を行っています。

会社設立に当たって、夢と希望を込めて社名を「大宝建設」と名付けたところ、すでに同名で届出を出していた他社から社名変更依頼を受け、安藤玲子社長の旧姓「三崎」の「三」を付けて「三大宝（みだいほう）」と変更される予定でした。ところが、「さんだいほう」と読む人が圧倒的に多かったことから、「さんだいほう」をそのまま社名にされたというエピソードがあるそうです。

先代社長であるご主人と重機1台からスタートして、二人三脚で会社の経営に携わった安藤社長は、ご主人が若くして他界された後、2人のお子さんを育てながら、代表として経営のかじ取りを担ってこられました。

そして、バブル崩壊後は公共工事が減り、同業者がどんどん淘汰される中で、経営の効

であることが証明され、県の「リサイクル製品認定」を受けて公共工事にも使用されています。

同社の取り組みに対して、建設副産物対策近畿地方連絡協議会から、「平成23年度近畿建設リサイクル表彰」の再生資源化部門の奨励賞を授与されました。

「全社員が一丸となって開発に取り組んだ結果」と、社員のがんばりを評価する安藤社長。受賞を励みに、環境に配慮した工事や製品開発で、なお一層社会的責任を果たす企業を目指したいと、決意を新たにしております。

夢はサクラの工場[®]で迎える50周年

エコアクション21の認証取得のほか、滋賀県のワーク・ライフ・バランス推進企業に登録するなど、CSR活動にも熱心に取り組んできた同社では、「未来を担う子どもたちに環境問題について理解を深める機会を提供したい」という思いを込めて、地元の中学生を対象にリサイクル工場での5〜7日間の体験学習を毎年受け入れてきました。

そうした長年の社会貢献活動が評価されて、平成24年度の全国建設業協会の「建設業ふれあい活動」で功労者表彰を授与されました。

また、平成22年には、「3Kと言われる建設業界のイメージを少しでも払拭して、地域の方々にお花見を楽しんでもらう」、「サクラの工場」と呼ばれるようにしたい」と、約8000坪ある同社の敷地周りにサクラの木を植樹されました。

「創立50周年の節目には、見事に咲いたサ



土木工事、解体工事のほか産業廃棄物の処理などでも優れた実績を有している



平成24年度全国建設業協会の「建設業ふれあい活動」で功労者表彰を受賞



清掃活動など地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる



敷地周りに植樹されたサクラの若木



率化などに知恵を絞り、社員と力を合わせて困難を乗り越えてこられました。

「いつも夢を持ち続けることができたお陰で、目標に向かってがんばることができた」 「たくさんの方々に支えていただいたお陰でここまでやってこられた」と、これまでの道のりを振り返られます。

オンリーワンのリサイクル製品を開発

厳しい時代でもなんとか夢のある仕事をしたいと、下水汚泥処理によって生じる溶融スラグの有効利用促進と、環境に配慮したオンリーワンの製品づくりを目標に掲げて、平成18年から下水溶融スラグを再生処理した路盤材の研究に着手されました。

試行錯誤を繰り返した結果、有効な処理方法のなかった廃瓦を混合することで、安全性が高く安価で良質な下層路盤材の開発に成功しました。立命館大学建設保全工学研究室の建山和由教授の協力を得て、製品の適性度や安全性の検証を行った結果、優良な路盤材

クラの花に囲まれて、記念になるイベントを行いたい。それを目標に、健康に留意して、いつも明るく、笑顔と感謝の気持ちを忘れずがんばりたい」と言う安藤社長が、つねに心に念じ唱えてこられたのは、世の中は心一つの置き処。苦も楽となり、楽も苦となる、ということばです。

本社敷地内にある産業廃棄物の処理・再生プラント



下鈎甲区内22号線交差点改良工事



国道第422号道路改良工事

●長浜市／敦賀市 柳ヶ瀬トンネル

鉄道創業期を物語る
歴史的建造物

明治新政府が東京・横浜間、京都・神戸間、敦賀・米原（後に敦賀・長浜間に変更）間の鉄道敷設を計画したのは明治2年のこと。敦賀線は、日本海側と太平洋側を結ぶ新政府の国家的事業として、明治13年に着工、翌年には金ヶ崎・疋田間で貨物輸送が始まりました。

難工事のため柳ヶ瀬トンネルが未完成のまま、明治15年には金ヶ崎・洞道口間、柳ヶ瀬・長浜間の運輸営業が開始されましたが、トンネル完成までの2年間、乗客は洞道西口と柳ヶ瀬間の山道を歩いて往復しました。



すべて日本人の手によって、明治17年に完成した柳ヶ瀬トンネルは、当時日本最長の全長1352メートルで、滋賀県側の出入り口には伊藤博文の筆による石額「萬世永頼（ばんせいえいらい）」（いつまでも長く頼りにするという意味）が掲げられ

ました。現在、オリジナルの石額は長浜鉄道スクエアに保存展示されています。トンネル上部はレンガ造りのアーチ、下部は石積みで、明治初期のトンネル技術を伝える歴史的建造物です。

開業当初、1日に旅客と貨物がそれぞれ3往復していましたが、片道2時間あまりかかり、長浜駅からは、湖上を大津まで結ぶ鉄道連絡汽船が運航していました。

麻線後も 道路トンネルとして活躍

全通した敦賀線は、国際貿易港としてにぎわう敦賀と京阪神を結ぶ輸送の効率化に貢献しましたが、年々輸送量が増すにつれ、貨車が長く重くなり、1000分の25という急勾配のある柳ヶ瀬トンネル内をスムーズに通過できなくなり、勾配を上り切るために中之郷駅で補助機関車が連結されましたが、ト



滋賀県側の柳ヶ瀬トンネル東口

ンネル内で列車が立ち往生して、機関士や乗客がばい煙で窒息する事故が何度も起こりました。そこで、列車がトンネルに入ると開閉式の幕で入り口をふさいで空気の供給を絶ち、列車の後方の気圧を低くすることで、煙が列車の後方に吸い寄せられ、トンネル上部に設けられた換気口から排出されるようにしました。

この頃から、近江塩津経由の深坂トンネル新ルートが計画され、1938（昭和13）年に着手しましたが、戦争の影響等により新ルートの完成は1957（昭和32）年にな



鉄道スクエアに展示されている「萬世永頼」の石額と、難工事の状況を綴った「柳瀬洞道碑」



旧余呉町に残る中之郷駅跡。プラットフォームがそのまま残されている。

利用客の減少で昭和39年5月11日をもって鉄道営業を廃止、鉄道に代わって国鉄バスが運行され、路盤は国道やバス専用道として使用されることになりました。

現在、柳ヶ瀬トンネルは福井県道・滋賀県道140号敦賀柳ヶ瀬線の道路トンネルとして利用されています。幅員4.2メートル、有効高4メートルしかないため、入り口に信号機が設置されて、1車線の交互通行となっています。

柳ヶ瀬トンネルは現在も使用されているトンネルの中で、2番目に古いトンネル



福井県側のトンネル西口

【柳ヶ瀬トンネル】
福井県敦賀市麻生口／滋賀県長浜市余呉町榑坂
長浜鉄道スクエア（旧長浜駅舎）
長浜市北船町1-41 TEL.0749-63-4091



旧長浜駅舎

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

腰痛予防のために始めたランニング オフタイムもアウトドアで オンタイム



株式会社桑原組 菅 豊三郎



釣り上げた70cmの真鯛を持って記念撮影

週に1、2度、仕事を終えた後に職場周辺の琵琶湖畔を1時間ほど走っています。若い頃に特別、スポーツをやったというわけではありませんが、腰痛を予防するための筋力を付けて自己管理することが必要だと思い、10年ほど前から走り始めました。

当初はスポーツクラブで泳いでいたのですが、もう少し運動量のあるものと思ってランニングを始めました。

基礎体力づくりが主目的ですが、ランニングが楽しめる程度に走ることになっています。県内外で開催されるマラソン大会などに時々出場しています。最近、山道を走るトレイルランにも参加しました。

趣味と言えば釣りによく行きます。子どもの頃から釣りに親しみ、大人になってからはもはや大物を狙った磯釣りを楽しんでいます。

主に小浜方面へ行くのですが、釣り仲間と出かける時もありますが、一人で早朝出船する船に間に合うように車を走らせることも少なくありません。70〜80センチの真鯛、ヒラマサなどを狙っていますので、まったく釣れないこともよくあります。釣りをしない人には「何が楽しいのか」と言われそうですが、獲物がかかるのを待つ時間が楽しみです。



険しい山道を走るトレイルランに参加した



ランニング、釣りのほかに、時々山登りも楽しんでいます。新雪の比良山、残雪時や紅葉の北アルプスに出かけます。時々、気の合う仲間と自宅で「情熱の会」というのをやっています。撮ってきた写真をモニターに映し出し、山行を振り返り、飲んだり食ったりしています。



1. 日本最大級のメガソーラー「堺太陽光発電所」の広さは？
a 甲子園球場約5個分
b 皇子山球場約6個分
2. 「堺太陽光発電所」のソーラーパネルの傾斜角度は？
a 15度
b 30度
3. 飛行機から「堺太陽光発電所」を見た時に見える文字は？
a SOLAR POWER
b SOLAR SAKAI
4. バイオエタノールの原料として一般的なものは？
a サトウキビやトウモロコシなど
b 古新聞や古雑誌
5. 木材からエタノールを作る際に有効な遺伝子組み換え菌は？
a T KO11
b KO11
6. E3燃料のバイオエタノールの含有率は？
a 33%
b 3%
7. 次世代エネルギーパークを推進しているのは？
a 経済産業省
b 環境省



クイズ バズル

質問の答えをa、bから選んでください。
aかb、正解が多いのはaかb。
ヒント 特集「話題の焦点」



サクサクジューシーなとんちゃん唐揚げ

高島とんちゃん (高島市)

昭和30年代中頃から安曇川町の鶏肉店が販売した、みそベースのタレに漬けた味付け鶏肉のことを、地元の人々は親しみを込めて「とんちゃん」と呼んできました。

庶民が手軽に食べられると馳走だった「とんちゃん」を高島の新しい郷土食にしようとして、高島市今津町で飲食店を経営する藤原尽志さんは、今年「高島とんちゃん組合」を設立しました。

藤原さんの家も、先々代から始まった鶏肉生産販売農家で、こちらでは代々醤油ベースの「とんちゃん」を製造販売してきました。昨年先代の焼肉店を引き継いだ「今津の食堂 モーモーとんちゃん」で、藤原さんは塩系や唐揚げのとんちゃん、郷土料理の「しよいめし(炊き込みご飯)」にとんちゃんや野菜をふんだんに載せた「高島とんちゃん丼」など、新しいメニューづくりに工夫を重ねてきました。



三代続いた味を守り続ける藤原さん一家



今津の食堂 モーモーとんちゃん
高島市今津町深清水1012-6
☎0740-22-0410
11:30~14:30
17:00~23:00 無休

以下の2店でも高島とんちゃんのメニューがあります。
天平フーズ ☎0740-25-5225
うおさい (道の駅「藤樹の里あどがわ」内) ☎0740-32-1602



郷土料理「しよいめし」にとんちゃんを載せた「高島とんちゃん丼」



秘伝の塩で味付けした塩焼きとんちゃん

「いつか『高島とんちゃんサミット』を開催したい」と言う藤原さん。ふなずしや近江牛と並ぶ滋賀の郷土料理にして、地域を盛り上げたという夢を抱いています。

取材ほれ話



今号の特集「次世代エネルギーパークレポート」では、忙しい仕事の合間を縫って6名の広報委員の方々が取材に同行してくださいました。

厳しい残暑の残る9月初旬に「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」を訪れたメンバーのみなさん。「堺太陽光発電所」では、建設や維持管理のコストを削減するために、さまざまな工夫が凝らされていることを知り、感心することばかりでした。説明をしていたら、関西電力堺港発電所PR館の大庭勝美副館長、窓口となっていた堺市文化観光局長の澤田克生様、ほんとうにありがとうございました。

続いて訪問した株式会社DINS堺バイオエタノール事業所では、建設業と関りの深い廃木材を有効利用するため、さまざまな技術が活かされていることがわかりました。案内をしていただいた業務課の徳原一浩課長、たいへんお世話になりました。

余談ですが、行く先々でおいしいランチができるお店を見つけたことも、取材の大きな楽しみになっています。「高島とんちゃん」の取材を兼ねて、「今津の食堂モーモーとんちゃん」では、おいしくてボリューム満点のランチをいただきました。



私も78歳の時に東京タワーの階段を徒歩で上り、認定証をゲットしました。(藤波喜競さん)

VOICE 読者の声

守山市の旧中山道にできた新しい憩いの場「うの家」が、まちの活性化につながることを期待しています。(山岡周夫さん)

新建築を見ていると時代の移り変わりがよくわかり、参考になります。(下山 博さん)

前号の答え
34,000(㍊)

パズル&クイズ当選者

- 鍋島 道雄さん
- 西川 清子さん
- 山崎 泰さん
- 鈴木 知司さん
- 武内 勇雄さん
- 岡本 聖さん
- 丹治 徳彦さん
- 石井 清治さん
- 吉田 美鈴さん
- 佐伯 範夫さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り 平成25年1月20日必着
- あて先 〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18 (社)滋賀県建設業協会 広報委員会

After Word



今シーズンの夏も連日暑い日が続き、とても汗を良くかく私にとっては、夏は試練の季節です。そんな試練の中、体調を壊すことなく毎日楽しく生活出来たことはうれしく、私に関わって下さった方々のおかげだと感謝しております。

今回掲載されている記事の取材には、ほぼすべてに同行させて頂くことが出来ました。建設業だけに留まらず、多数の業種、サークルの代表の方の話をお聞きし、恐れながら、私が共通して感じさせて頂いたことは、「対外的にご自分の周りの方々の役に立ちたい」という思い、「周りの方に対して大切に接する」という思い、「今後のことを楽しく語られている」強い思いを感じました。大変いい刺激を受け、自分自身が前向きになるいいパワーを頂くことが出来ました。ありがとうございました。

また、9月の初旬に大阪の堺市にある日本最大のメガソーラー施設を見学しました。広大な敷地に、多額の費用をかけて生まれた電気を生み出す施設は、その場所に着いた瞬間、「わ〜、ひろ〜」と、私、かなり驚いておりました。数十年先の事も考えての計画、1番効率のいい設置仕方、施工方法、そして費用をかけずにいけるメンテナンスの方法等、大変興味を持てる話をお聞き出来ました。が、これだけの施設で発電される電気も電力全体の0.007%だということに驚き、これからの課題はまだたくさんあるのだと考えさせられました。

最後に、口と十(プラス)を合わせて叶うという漢字になるように、プラスな言葉で前向きな思いになるよう、今後も建設業が盛り上がっていくよう、微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思っております。



高島市海津地域のみなさんが参加して、かまどベンチづくりを行いました。



夢けんひろば

共助のまちづくりを目指して
地域のみなさんと
「かまどベンチ」を製作

地震や台風などの災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らして、万が一、被害にあっても立ち直る力を養うという観点から、全国で「防災意識」を高める取り組みが広がっています。

そこで(社)滋賀県建設業団体連合会では、社会貢献活動の一環として、災害時における共助のまちづくりを目指して、「かまどベンチ」を製作し、設置する取り組みを行っています。

通常時はベンチとして利用し、非常時には「かまど」として炊き出しに利用できるもので、非常時に地域住民が集まる公共公園や地方自治体の緑地公園等の施設に無料提供しています。

また、かまどベンチ製作に当たっては、彦根工業高校で製作されたものをヒントに、各地域の住民と共に作業を行うようにしています。



社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp